



マスコットキャラクター  
「ちゅうおうちゃん」

## 札幌市立中央幼稚園

# 研究だより 最終号

本園は、札幌市の研究実践園として、質の高い幼児教育の充実に向け、札幌市の幼児教育を取り巻く状況や特徴、課題に対応するための実践研究を展開しています。

今年度は、園と家庭が一体となって子どもの育ちを支えるために、発達に応じた幼児の姿や関わりのポイントを「**見つけよう!子どものいいね!大人のいいね!**」をキーワードに、家庭と共有することを目指してきました。保護者の皆様には、「ちゅうおうだいありー」をはじめ、様々な場面で御理解・御協力をいただきまして、ありがとうございました。

1年間の研究の成果を下記にまとめました。次年度もこの成果をもとにお子さんのより健やかな成長のために、園として、家庭として何ができるか、保護者の皆様と一緒に考えていきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。



こんな姿が育ちました! (子どものいいね)

### 安心して、思いをのびのびと表す姿

### 心を動かし、主体的に遊ぼうとする姿

友達と一緒に、楽しい!



かおりさん  
かっこいいね!



ドロドロで  
きもちいいね!



### 身の周りのことを自分で行う姿

幼稚園をピカピカにしよう!!



着替えや所持品の  
始末は自分で!



私たちがテー  
ブルを出すね!



修了式直前のある日、年長児がしみじみとした様子で「ああ、幼稚園楽しかったなあ・・・。」とつぶやいていました。幼稚園生活を振り返って「楽しい」と思える、正にそこに育ちがあると思います。

好きなことや得意なこと苦手なこと、考え方や感じ方が違う子どもたちが集まっている幼稚園という集団生活の場。そんな中でも安心して過ごし、自己発揮してこれたからこそ「楽しかった」と思えるのではないのでしょうか。「自分の思いを素直に友達に表す」「やってみたいことを見付け主体的に取り組もうとする」「自分ですべきことに気付いて自ら行おうとする」「やってみて楽しかった、できて嬉しいという満足感や達成感を味わう」そんな姿が、1年間でとても育ったと思います。

こうした子どもたちの姿には、園での友達同士の関わりだけではなく、大人との関わりや、園と家庭での活動のつながりがとても影響しているということが、研究を通して分かってきました。

※裏面の「大人のいいね!」に詳細を記載していますので、ご覧ください。



子どもの育ちにつながる**大人のいいね!**

### ・子どもたちが園で楽しんでいることを「大切なこと」として受け止める

＜エピソード例＞園で作ったもの、発見したものなどを家庭に持ち帰ることがありました。時には、泥水やせっけん水、土や雪の塊を持ち帰ろうとする子どもの姿に驚かれたこともあったかと思います。子どもたちは、自分の発見や感動、喜びをおうちの人に見せたい一心です。そんな子どもたちの心の動きに寄り添い、「すごいね」「どこで見つけたの？」など言葉を掛けてくれる大人の存在が、安心して思いを表したり、もっとやってみようと主体的に遊ぶ姿につながっていました。



### ・「できた」「できない」ではなく、子どもの「内面の育ち」に目を向ける

園では、職員同士で「子どものいいね!」と思った姿を伝え合うことを大切にしていました。そうすることで「〇〇さんのいいところはどこ?」と聞かれた時に、「鉄棒ができる」「平仮名が読める」などではなく、「できるようになるまで失敗しても何度も挑戦していた」「友達と文字を教え合いながら製作していた」など、結果ではなく取組の過程に目が向きやすいことが分かりました。

そして、頑張りを認めてもらえることは子どもの安心や意欲、自信へとつながっていきます。今後は、保護者の皆様と一緒にたくさんの「子どものいいね!」を見付けていきたいです。



### ・子どもと一緒に楽しむ、考える

＜エピソード例＞登園時、草花や木の実など色々な自然物を見つけてはそれを手に持って嬉しそうに登園するお子さんがいます。保護者の方も「寒いのにもうこんなお花が咲いていたんですよ」「これ、料理に使いそうだね!」など子どもと一緒に楽しんで発見を楽しんだり、遊びの活用方法を考えたりしていたかと思います。遊ぼうデーでも、お子さんと夢中になって遊んだり、やり取りを楽しんだりする姿が!!



そんな保護者の皆様の姿に「いいね!」と感じました。幼児期はまだまだ大人との関わりを求める時期、そして大人との関わりが友達との関わりにも影響しやすいです。是非、今後もお子さんと色々な経験や思いを共有してみてください。



そうすると、子どもはより興味関心を深めたり、自己発揮をしながら自信をもって生活したりするようになると思いますよ。

### ・子どもの成長を考えた関わり

研究だよりを読んだり、懇談会での話を聞いたりして、「今日の朝は雪道を歩いて来ました!」「手袋を五本指の物に変えてみました!」「字の練習ではなく、おばあちゃんに向けて一緒に手紙を書くことを楽しみました!」など、家庭で意識して関わってみたいというお話をよく聞きます。御理解、御協力をありがとうございました。今後も、園と家庭が一体となって、子どもの育ちを支えるために今どんな関わりが必要なのかを一緒に考えていければと思います。



今年度は、「いいね!」をキーワードに、子どもの育ちや大人の関わり方を保護者の皆様と共有してきました。次年度は「共有」から一歩進み、「一緒に考える」を重点に研究を推進していきたいと考えています。園と家庭のつながり、家庭同士のつながりを深めながら一緒に子育てを楽しんでいきましょう!



## 園の取組の成果と課題

### <成果>

#### ○子どもの育ちや発達の見通しをもてるような発信

- ・学級だよりや学級懇談会で教育課程に沿って子どもの育ちや課題を伝える
- ・「思考力の芽生えを視点とした砂遊び」「体をつかった遊び」など、どの学年も同じテーマで遊びの実践事例検討をし、発達の違いが分かるように研究だよりで発信

#### <保護者の声>

「今はこれでいいんだ！」  
と安心感をもてた！



他の学年の姿も知ることができ、今  
後の成長の見通しをもてた！

#### ○保護者と話すときには、関わり方のポイントを具体的に示す。

- ・教育者にとって当たり前なことでも、保護者にとってはそうではないこともある。  
なぜそうした方がよいのか、どんな言葉を掛けたり物を用意したりしたらよいかを伝える。

#### ○保護者の関わりについて、すぐに正しい見方を期待するのではなく、経験を重ねる中で変容が見られるよう連携をとることが保護者に寄り添うことにつながる

#### ○「ちゅうおうだいあいー」の活用

家庭での親子のコミュニケーション  
のきっかけづくりになっている

#### <保護者の声>



成長の記録になって  
嬉しい！

書くことで自分の考え  
や思いを整理できる

#### <先生方の声>



「いいね！」を書いてもらうこ  
とで、保護者の考え方や子育て  
感を知ることができる

継続して取り組むことで保  
護者の子どもの見方が内面  
に向かうようになってきた

### <課題>

園からの情報発信が多く一方的な連携となっていた。

保護者が子育てについて「考えてみたい」「知りたい」「やってみよう」という思いや、園での遊びや生活を通してどんな学びを身に付けさせたいかなどの願いをもつこと、それらの思いを園が理解し受け止めたり一緒に考えたりすることが、より幼児の育ちにつながるのではないかと。

次年度は、園、保護者間で幼児の育ちについての願いを伝え合い、子どもへの関わり方についてより見方、考え方を広げられるよう、園に投げ掛けられたら行うという受動的な連携から一歩前進し、保護者も園も主体的に考えようとする連携を目指したい。



研究だよりを始め、地域公開保育や合同研修会等でたくさんのご意見・ご感想をありがとうございました。次年度も引き続き先生方から頂いたアドバイスを研究に活かしたり、本園の研究内容を発信したりと地域の園と園がつながりを大切に研究を推進していきたいと思っております。今後とも、よろしくお願いいたします。